

形成外科

部長 杉田 直哉

診療体制

形成外科は、4月に河瀬弘代医師が大阪医科薬科大学より当院へ赴任しました。赤松順部長（日本形成外科学会領域指導医・皮膚腫瘍外科分野指導専門医・日本創傷外科学会専門医・日本創傷外科学会評議員・日本褥瘡学会評議委員・褥瘡認定師）が退職され、現在は、杉田直哉部長（日本形成外科学会領域指導医・日本創傷外科学会専門医・皮膚腫瘍外科分野指導専門医）、木村祐介医師（日本形成外科学会専門医）、河瀬弘代医師の形成外科3人体制で診療しております。

診療実績

手術件数は、入院手術368例と増加、外来手術158例とほぼ同数でした（表1）。麻酔別内訳は、入院手術では、全身麻酔273例、腰麻・硬麻・伝達麻酔75例、局麻手術20例でした。2017年度より、症例登録がNCDに移行し、報告様式に変更がありました。形成外科疾患データベースより形成外科専門医認定施設要件と過去6年間の件数推移を示します（表2）。I.外傷（熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術症例、顔面軟部組織損傷、顔面骨折、頭部・頸部・体幹の外傷、上肢の外傷、下肢の外傷、外傷後の組織欠損（2次再建））が105例と増加、II.先天異常（唇裂・口蓋裂、頭蓋・顎・顔面の先天異常、頸部の先天異常、四肢の先天異常、体幹（その他）の先天異常）が2例と減少、III.腫瘍（良性腫瘍（レーザー治療を除く）、悪性腫瘍、腫瘍の続発症、腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）、腫瘍切除後の組織欠損（二次再建））が127例とほぼ同数、IV.瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイドが18例と減少、V.難治性潰瘍（褥瘡、その他の潰瘍）が216例と増加、VI.炎症・変性疾患（蜂窩織炎、眼瞼下垂、陥入爪、腋臭症など）が14例と減少、VIII.その他（性同一性障害、ブラッドアクセス、分類不能など）が37例と増加、Extra.レーザー治療が7例と減少しました。今後も高知県の自然人口減少や高齢化に対する対応の継続が必要と考えられます。8項目中7項目の分野の症例があり、規定の5項目以上の要件を充足しました。また、学会や論文発表など学術面での基準も後述の如く充足致しました。

表1 年次別入院患者総数と手術件数（過去6年間）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
入院手術	321	330	307	328	333	368
外来手術	291	183	212	176	156	158
合計係数	466.5	421.5	413	504	412	447
入院患者総数	193	173	163	174	148	191

表2 年次別手術件数の症例内訳（過去6年間）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
I. 外傷 （全身管理を要する非手術例は含まず）	198	146	121	110	82	105
II. 先天異常	11	7	3	5	5	2
III. 腫瘍	158	123	128	125	125	127
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	22	7	7	8	22	18
V. 難治性潰瘍	157	180	215	206	209	216

VI. 炎症・変性疾患	25	23	15	16	19	14
VII. 美容（手術）	0	0	0	0	0	0
VIII. その他	21	14	27	26	20	37
Extra. レーザー治療	20	13	3	8	87	7
大分類 計	612	513	519	504	489	526

当科の特徴

近森病院は急性期特定病院、地域医療支援病院、管理型臨床研修病院、災害支援病院など急性期地域密着型の医療を行っている。形成外科は其中で顔面四肢の外傷や熱傷の治療はもちろん幅広く形成外科診療を行っている。当院の特徴や地域性により、最近では創傷外科分野における治療ニーズが上昇しており、急性期創傷のみならず、基礎疾患を持った慢性創傷や皮膚・軟部組織の悪性腫瘍の増加が顕著である。瘢痕・瘢痕拘縮の治療や創傷治癒に関する高い専門性を生かし、当院の特徴であるチーム医療及び垣根の低い他科との連携を通じて、医師として当然求められる知識、技術、倫理観などを持った一般外科救急臨床医としての資質を持った形成外科医の育成にも力を入れている。今年度も複数名の初期臨床研修医の指導を担当致しました。学外臨床実習も複数の大学からの受け入れをしました。さらに、高知県消防学校救急科への講師派遣、特定看護行為研修における創傷管理関係を担当し実習の指導などを行っています。

例年、学会発表などで、積極的に学術的情報発信を行っています。本年度も、学会発表や教育講演などを行いました。

3月17日に第24回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会をかるぼーとで開催いたしました。テーマは「レジリエント・コミュニケーション in 高知」でした。学会には多数のご参加を頂き、盛況のうちに終えることができました。

形成外科外来

外来センター4階北側の形成外科5診6診で主に診察処置、7診でミニカンファ・患者指導、8診処置室でQスイッチアレクサンドライトレーザーによる色素性疾患や外傷性刺青の治療、CO₂レーザーによる皮膚剥削や腫瘍切除などの蒸散治療、ラジオ波による焼灼治療や陥入爪手術（簡単）などの小手術、巻き爪に対するワイヤー治療などを行っています。また皮膚・排泄ケア認定看護師との連携も密に行っています。

臨床研究課題

難治性皮膚潰瘍に対する新しい治療として、再生医療であるPRP（多血小板血漿）処置が令和2年に保険適用となりました。当院はPRP処置の条件である施設基準に適合しており、第3種再生医療等提供計画の事前届出を行い、実際に複数の患者に対して外来でPRP療法を行い、有効な治療結果を得ております。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
肺化膿症開窓術後欠損に広背筋弁充填した一例	近森病院 形成外科 ○木村 祐介 杉田 直哉 赤松 順 近森病院 呼吸器外科 穴山 貴嗣 大阪医科薬科大学 形成外科 上田 晃一	第 38 回高知県形成外科医会	1 月 27 日 高知
RECELL® と NPWT を併用した大腿部Ⅲ度熱傷の 1 例	近森病院 形成外科 ○杉田 直哉 木村 祐介 赤松 順 大阪医科薬科大学 形成外科 上田 晃一	第 38 回高知県形成外科医会	1 月 27 日 高知
Citrobacter Koseri による鎖骨骨髓炎の 1 例	近森病院 ○木村 祐介 杉田 直哉 赤松 順 北村 龍彦 大阪医科薬科大学 上田 晃一	第 84 回中国四国形成外科学会学術集会	2 月 4 日 高知
フィブリンにより植皮が脱落した背部ガス壊疽の 1 例	近森病院 形成外科 ○杉田 直哉 赤松 順 大阪医科薬科大学 形成外科 上田 晃一	第 16 回日本創傷外科学会総会・学術集会	7 月 11 日・ 12 日 金沢
当院での顔面骨骨折治療における 3D プリンターの活用について	近森病院 ○河瀬 弘代 杉田 直哉 木村 祐介 北村 龍彦 大阪医科薬科大学 上田 晃一	第 85 回中国四国形成外科学会学術集会	9 月 8 日 広島